

第5回 経済学の考え方 その2 (経済学はどのような考え方をするのか)

本講義目的

- どのように選択が行われるのか。
- 経済学者が用いる基本的分析手段はなにか。
- 機会費用の概念とはどのようなものか。

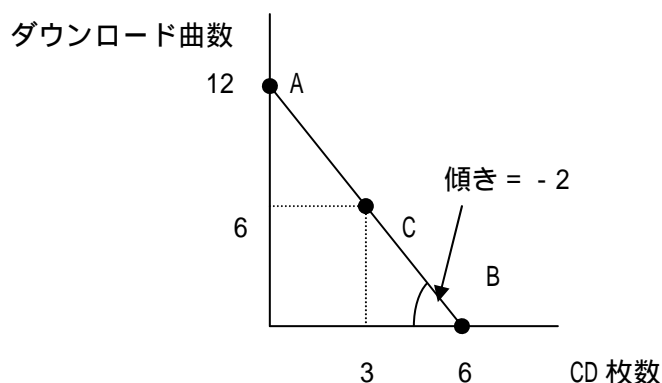
1. 機会集合

1) 予算制約

音楽好きのY子さんの1ヶ月の小遣いは3,000円である。音楽を1曲ダウンロードするのに250円のお金がかかり、CDを1枚購入するのに500円のお金がかかる。彼女がダウンロード可能な曲数と購入可能なCDの枚数の組み合わせは次の表で与えられる。

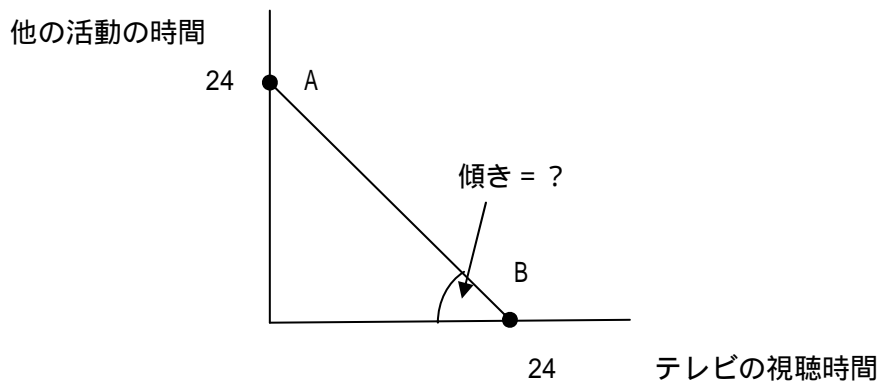
点	A			C			B
ダウンロード曲数	12曲	10	8	6	4	2	0
CD枚数	0枚	1	2	3	4	5	6

上の表をXY座標にプロットすると、Y子さんの機会集合は直線で示される。図中の傾きは、CDをもう1枚余分に購入するためにあきらめなければならないダウンロード曲数であり、今は-2曲である。これは、音楽を1曲ダウンロードするための価格250円とCDを購入するための価格500円の相対価格にマイナスをつけたもの、 $-(500 \div 250) = -2$ で与えられる。



2) 時間制約

テレビ好きのR君のテレビの視聴時間と他の活動のための時間は、次の直線で与えられる。

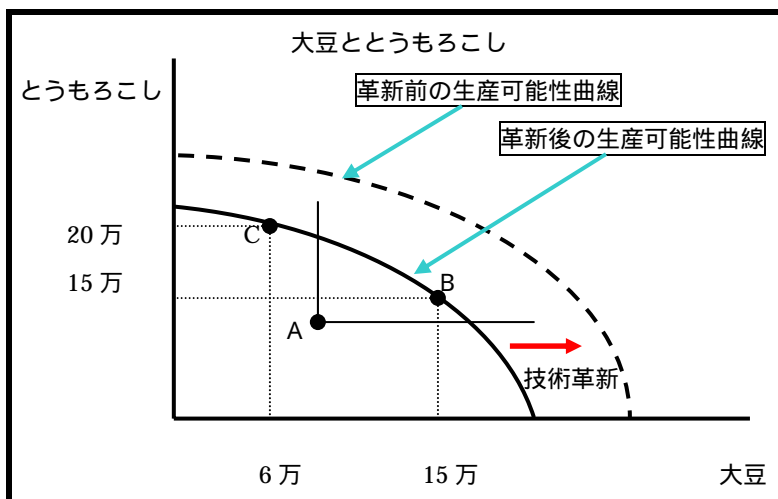


## 2. 機会費用 (Opportunity Cost) とは

経済学者がいう費用とは、機会費用を示す。これこそ経済学で最も大切な概念である。機会費用とは、資源をある一つの用途に使用せずに、別の用途に使用した場合えられる便益の中で最大ものを示す。別の言い方をすれば、資源をある一つの用途に使用したために、あきらめなければならなかった最大の価値を示す。

- 映画鑑賞するための費用とは
- 授業に出席するための費用とは

## 3. 生産可能性曲線



### 1) 生産可能性曲線の意味

図は、ある農家が本年度生産できる、大豆ととうもろこしの量(トン)を示す。農家は、同じ労働時間、同じ資本(土地面積、肥料等)で生産をすると仮定する。

農家は生産可能性曲線より外側では、生産は行えない。一方、農家が生産可能性曲線の内側(たとえば点A)で生産を行うなら、手持ちの資源を最適利用していないこととなる。

## 2) トレードオフの概念

従って、農家は生産可能性フロンティア上で生産活動を行い、本年度生産する大豆ととうもろこしの量を決定する。大豆の生産を増やすためには、とうもろこしの生産を一部あきらめなければならないし、とうもろこしの生産を増やすためには、大豆の生産を一部あきらめなければならない。

## 3) 生産可能性曲線の形状

大豆の生産量を1トン増やすのにあきらめなければならないとうもろこしの量は、始めは少ないが、大豆の生産量が増えるにつれその量は増加するようになる。例えば、今までとうもろこしを生産してきた大豆の栽培にむいていない農地において大豆を生産するようになれば、単位面積あたりの大豆の収穫量は当初より少なくなる。つまり、小麦の生産減少で評価した大豆の生産の機会費用は徐々に高いものについてくる。

## 4) 技術革新の役割

同じ労働時間、同じ量の資本量のもとでも、技術革新が生ずればより多くの車が生産出来るようになる。技術革新は、農家の生産可能性曲線を押し上げる。